

令和5年度 宮崎科学技術館 事業計画書

基本方針

宮崎科学技術館は、宮崎市制60周年記念事業として、明日を担う子どもたちに「科学する心」と「創造性」を培う場を提供するために開設された施設である。昭和62年8月の開館以来、一貫して充実した施設・設備を活用した管理運営に努めてきた。特に近年、利用者は幼児から高齢者まで幅広く、障がいのある方や外国人の利用も増えていることから、利用者の多様なニーズを踏まえた、満足度の高い管理運営に努めている。今後、更に市民から信頼されるよう、次の4つの基本方針のもと、継続的・発展的な管理運営を行っていく。

- 〈基本方針1〉科学及び科学技術に関する知識の普及及び啓発を図り、未来を担う子どもたちの「科学する心」と「創造性」を培うとともに、あらゆる世代に科学を楽しく体験する機会と場を提供する。
- 〈基本方針2〉地域の関係機関・団体・ボランティアと連携・協働し、利用者のニーズに応じた満足度の高いサービスの提供を通して地域づくりに寄与する。
- 〈基本方針3〉科学の普遍性と革新性を踏まえた魅力ある事業を展開するために、全職員が教育的な目的や効果を意識した事業運営を行うとともに、的確な経営感覚による施設運営を行う。
- 〈基本方針4〉SDGs（持続可能な開発目標）を推進するために、プラットフォームとしての機能を果たすため、各イベントの広報紙や説明用モニター、館内展示物のサインボード等にロゴを掲示することにより、宮崎市民及び来館者に対して、取組を「見える化」し、行動を推進する。

事業概要

1 常設展示事業

常に展示物の安全管理と安定的稼働を念頭に置き、展示物のリニューアルも視野に入れながら、利用者が体験を通して科学の原理原則を発見・体得できるような展示配置や解説に努める。

2 教室事業

科学実験や工作、天文等各種教室を実施し、利用者の科学への興味・関心を高めるとともに、来館者のニーズに対応した事業展開に努める。

3 プラネタリウム事業

全天周投映システムによる幅広い年齢層に応じた番組や小・中学校の学習番組の投映に加え、えほんの読み聞かせや各種コンサートの実施など、世界最大級の大きさを誇るプラネタリウムを活用した事業展開に努める。

4 イベント事業

当館の設置目的に沿った各種イベントの一層の充実を図り、科学に親しむ機会や科学技術・自然・人間との関りを通して、環境問題などを身近に感じてもらう機会の創出・提供に努める。

5 人的ネットワークの一層の連携強化による事業展開

小・中学校、高校、大学、企業や地域密着の運営ボランティア、教育ボランティア J S C (ジョイフル・サイエンス・クラブ) など、関係団体との更なる連携強化による一層の事業展開に努める。

6 その他

新たな宇宙事象に関すること、教育現場における新学習指導要領実施に伴うニーズに応えること等を目的とした新規事業や、多様なメディアを活用した情報提供、友の会への勧誘などを通して、施設の有効活用や利用者拡大に努める。

1 常設展示事業

来館者が、約 120 点の常設展示物による遊びや体験を通して、科学の不思議に気付き、体得できるように努める。また、令和 3 年度に作成した「授業に使える展示物～校外学習・出前講座等を充実させるガイドブック～」やワークシート等で展示解説の充実を図る。

2 教室事業

(1) 科学実験・工作教室

幼児、小・中学生を中心に、多様な入館者を対象とした科学実験や工作等の教室を実施する。

No.	教 室 名	対 象	回数等	定 員
1	チャレンジサイエンス	入館者	32回	なし
2	エンジョイサイエンス	入館者	12回	なし
3	なんでもサイエンス ※スペシャルサイエンスショー4回を含む	入館者	16回	各16組×2回
4	ダ・ヴィンチ工房	小4～中3	6回	各20人
5	自由研究サポート教室	小・中学生	約2週間	なし
6	生きがい科学館	大人	8回	各20人
7	科学技術週間工作教室	入館者	2日	各日100人
8	宮崎少年少女発明クラブ	小4～中3	20回	30人
9	コスモランド教室	園児	12回	各240人
10	コスモランドサイエンスラボ	小学生	随時	80人以内
11	サイエンス親子学習教室	親子(小5)	2回	各16組
12	どろだんご教室	小学生～大人	2回	各50人
13	ちょこっと工作(アウトリーチ)	親子	随時	なし

(2) 天文教室

幼児から大人を対象に、プラネタリウムホールを活用した、星座の学習や星座にまつわる楽しい神話等の解説を通して、天文に関する知識の普及を行い、興味・関心を高める。

No.	教 室 名	対 象	回 数	定 員
1	星空教室	幼児～大人	9回	各80人
2	スターウォッチング教室(アウトリーチ)	団 体	5回	各30～100人程度
3	中秋の名月大観望会	幼児～大人	1回	300人

4	部分日食観察会	幼児～大人	1回	50人
5	スターウォッチング in まちなか	幼児～大人	2回	各100人

(3) プラネタリウム学習教室

プラネタリウムホールで、小学4、6年生、中学3年生を対象に、学校で学習する天文領域の学習を補充、深化できるような授業を行う。さらに、天文分野の学習に困難を感じている子どもたちへの理解を深める機会とし、天文に関する興味・関心を高め、知識の普及を行う。

No.	教室名	対象	回数	定員
1	プラネタリウム親子学習教室①	小学4年生	2回	各240人
2	プラネタリウム親子学習教室②	小学6年生	1回	240人
3	プラネタリウム親子学習教室③	中学3年生	1回	240人

3 プラネタリウム事業

星や星座、天体現象に関する解説を行い、各種番組を充実させることで、天文・宇宙に対する認識を深めてもらうとともに、宇宙への夢とロマンを提供する。

また、全天周投映システムによる各種コンサート等の演出を工夫することで、世界最大級の大きさを誇るプラネタリウムホールの有効活用を図る。

(1) 番組投映

① 学習番組

対象区分	番組名
幼児	「オズのまほうつかい」(永)
小学生	「スタジオ444」(永) [小4] 「ボワンとフーニャンの宇宙調査隊」(永) [小6]
中学生	「この空に願いをこめて…」(永) [中3]
一般	「DARK」(永)、「宇宙への旅」(永)、「宇宙への第一歩」(永)、「太陽」(永)

② 一般番組

対象区分	番組名
ファミリー	【新番組】「新クレヨンしんちゃん」、【新番組】「ノーマン・ザ・スノーマン2」、【新番組】「紙兎ロペ」、【新番組】「国際宇宙ステーションからの眺め」(永)、【新番組】「ポラリスを見つけよう」(永)、【新番組】「君と観る流れ星」、「星の降る夜に」、「ジュラシック・ヒーローズ」、「カラフル太陽ツアー」、「DARK」(永)、「宇宙への旅」(永)、「宇宙のエネルギー」(永)、「太陽」(永)、「アマテラス」(永)、「星になったチロ」(永)、「今夜、銀河の片隅で」(永)、「むしむし星空大行進」(永)

※(永)＝永久投映権を有する番組

③ 自主制作番組

「ひむか神話 ～太陽の女神・アマテラス～」(令和2年9月リメイク版)

(2) コンサート

コ ン サ ー ト 名		対 象	実施時期（予定）
みんなでキラキラ 星空コンサート	（こどもの日スペシャル）	幼 児～大人	4月29日（土）
	（クリスマススペシャル）	幼 児～大人	12月2日（土）
星空と音楽のタベ	（Part 1 2 4）	中学生～大人	7月1日（土）
	（Part 1 2 5）	中学生～大人	9月30日（土）

(3) その他

イベント名		内 容	実施時期（予定）
星空さんぽ in プラネタリウム		一般投映とはちょっと違った趣向を凝らした大人向けの投映で、星座等の世界に浸れる50分間の星空生解説を行う。解説後はミニ観望会を行う。	11月23日 （木・祝） 【1回】
キッズウィーク	えほんの読み 聞かせ in プラ ネタリウム	ドームに絵本を大きく投映し、ボランティアの朗読とともに絵本の読み聞かせを行う。	奇数月 第2水曜 【6回】
	キッズアワー	プラネタリウムホールを明るめに設定し、幼児向けの星空解説をライブ解説と映像を合わせて行う。また、幼児向けの番組投映を行う。	6月, 10月, 12月, 2月 第2水・土・日曜

4 イベント事業

あらゆる世代を対象に、科学に関する興味・関心を高めるイベントや環境問題など、社会の変化に対応した身近なテーマを取り上げた各種イベントを主催や共催により行う。

(1) 主催事業

No.	イベント名	内 容	実施時期（予定）
1	企画展「ドローン操縦 体験会＆プログラミング 体験教室＆ドロー ンサッカー大会」	昨年度と異なる内容で、プログラミング体験教室を実施するとともに、ドローン操縦体験会及びドローンサッカー大会を企画し、日常生活での活用状況も知る機会を設け、ドローンへの興味関心を高める。	ドローン操縦体験会 4月1日（土） 2日（日） プログラミング体験教室 7月15日（土） ～17日（月・祝） ドローンサッカー大会 8月12日（土） 13日（日）
2	部分日食観望会	科学技術館周辺にて、部分日食を、望遠鏡を使って案内する。	部分日食観望会 4月20日（木）
3	【新規】4D-VR 新番 組「バーチャル恐竜パ ニック」	映像技術の最先端である4D-VRの新番組として、森に遊びに来た来館者が恐竜に遭遇し、恐竜の世界を疑似体験できる機会を提供する。	4月29日（土）～

4	ゴールデンウィーク イベント (こどもの日)	鯉のぼりを正面玄関付近に設置するとともに、多くの子どもたちに科学に親しんでもらうために、サイエンスショーや工作教室等を実施する。	4月29日(土・祝) ～5月7日(日)
5	南極クラス	越冬隊の方の講話を通して、極地での生活や自然環境についての関心を高め、地球環境を学ぶ機会とする。越冬服や風速60mの実演や、実際のブリザードの動画等を通して、南極での生活に触れる機会とする。	7月2日(日)
6	【新規】 スターナビゲーションの世界	明石天文科学館からのデータおよび資料提供を受けながら、太平洋地域に伝わる星を使った航海術に関する企画展を開催する。また、一般投映の工夫として「星空マスター」と題したクイズなどを盛り込んだ投映を実施し、企画展と連動して盛り上げる。	7月22日(土) ～8月24日(木)
7	【新規】 企画展「もぐもぐ探検隊 ～“くち”から“おしり”まで～」	夏休み期間中の企画展の一つとして、「ヒトの消化器官」をテーマに、来館者が食べ物になった気分、段ボールで作られた身体の中を「口からおしり」まで、探検気分で行き、身体の仕組みについて学ぶ機会とする。	7月22日(土) ～8月31日(木)
8	見てみよう！科学技術映像祭	科学技術映像祭の入選作品を上映することで、科学技術について興味・関心を高める機会とする。	7月22日(土) ～8月27日(日)
9	青少年のための科学の祭典2023 宮崎大会	科学事象の不思議さや楽しさを体験できる実験ブースを多数用意し、体験を通して科学に対する興味・関心を高める。	8月 5日(土) 6日(日)
10	「名月展」 中秋の名月大観望会	市民の天文分野の普及啓発のため、中秋の名月に合わせて、観望会と月の魅力を紹介するパネル展を1階展示室内で行う。	9月23日(土)～ 10月29日(日) 観望会 9月29日(金)
11	【新規】AM/FM ラジオ 組み立て教室	電波の性質やAM/FM ラジオ組み立て技術を学び、はんだごて等の使い方を体験する。また、次年度の夏休みの自由研究の参考事例とする。	11月4日(土)

12	令和5年度 宇宙画作品展	県内の小・中学校から宇宙に関するテーマに沿った絵画を募集し、入選作品を展示する。最優秀賞を受賞した作品は全国の作品審査に出品する。銀賞以上の受賞者の表彰式を行う。	11月18日（土） ～12月10日（日） 表彰式 12月10日（日）
13	【新規】プログラミング講座「対象：小学校1，2年生」	宮崎学園短期大学との連携により、今まで実施してこなかった小学校低学年（1，2年生）を対象とした、プログラミング体験教室を実施する。ビジネス科の学生を講師招聘し、スクラッチ等を使って、プログラミングの初歩を体験してもらう。	11月25日（土）
14	ナイトミュージアム	夜間を効果的に使った演出とプログラムを準備し、科学館の面白さの再発見と、科学現象や科学技術に対する興味・関心を高める機会にする。	12月23日（土） 24日（日）
15	各種団体事業	団体：宮崎少年少女発明クラブ 小・中学生に創作活動の場を提供し、科学的な興味・関心を高めるとともに、ものづくりの喜びを体得させる。	通年 【20回】

（2）共催事業

No.	イベント名	内 容	実施時期（予定）
1	航空教室 （航空大学校主催）	小・中学生を対象に、空を飛ぶことについての正しい知識をもってもらうことを通して、航空思想の普及啓発を図る。	7月 1日（土） 2月 3日（土） 【2回】
2	「命の科学」フェア	「医学」の面から、「命」について科学的、体験的に考えられる場を提供する。	7月 9日（日）
3	宮崎地区サイエンス コンクール展 （みやざき科学技術人材育成推進委員会主催）	宮崎地区（1市2町）の小・中学生の理科の自由研究に関する作品展を行うことを通して、科学技術への興味・関心を高める。	9月2日（土） ～9月10日（日）
4	宮崎県発明くふう展 （宮崎県・宮崎県教育委員会・宮崎県発明協会主催）	創造力に富む人材の育成と発明の奨励を図るとともに、その実用化を促進し、科学技術に対する意識の高揚と本県工業の発展に寄与する。	10月13日（金） ～15日（日）

5	コズミックカレッジ (はまゆう会)	宇宙をテーマにした実験を通して、科学の楽しさ、不思議、感動を与える科学の芽を育む。	11月 11日 (土)
6	宮崎市中学校毛筆書道展 (宮崎市中学校書写部会主催)	宮崎市の中学生による毛筆の作品を展示し、中学生や関係者の科学館利用を図る。	1月10日 (水) ～21日 (日)

5 人的ネットワークの一層の連携強化による事業展開

- (1) 幼稚園・保育所等、小・中学校、高校、大学、企業との連携を通して、展示事業や各種イベント等の充実と、相互補完体制を築き、子どもたちの「科学する心」や「創造性」を育むよう努める。
- (2) 天文愛好者との連携による天文教室や天体観望会、世界最大級のプラネタリウムの積極的な活用による各種イベント及びコンサート等の開催を通して、市民の天文科学への興味・関心を高める。
- (3) J S C (ジョイフル・サイエンス・クラブ)、宮崎科学技術館運営ボランティア、宮崎大学教育研修生(チャレンジサイエンス等の支援)、宮崎ビジネス公務員専門学校ボランティア実習(インフォメーション、インストラクター業務等の支援)との連携により、来館者への案内サービスの充実に努める。

6 その他

(1) 学校連携

令和3年度に作成した小・中学校における学習指導要領と展示物を関連付けた「授業に使える展示物～校外学習・出前講座等を充実させるガイドブック～」の利活用を図るために、学校との連携を更に推進する。具体的には、市小・中学校教職員初任者研修及び理科研修において、学校連携・教育支援調整監が指導者となり、授業等で活用できる展示物の説明や実験・観察等の紹介を行う。

(2) 広報の充実

ホームページやSNSを活用し、広報の充実に努める。

(3) 売店事業の円滑な運営

来館者へのサービス向上を図るため、売店の円滑な運営・充実に努める。

(4) 他館との連携

協会が管理する他施設との連携により、イベントに合わせた天体観望会を実施する。

(5) 地域との連携

施設の立地を生かし、周辺事業者等と協力の上で、他事業者と連携した企画を実施する。

令和5年度 宮崎市歴史資料館 事業計画書

基本方針

宮崎市歴史資料館は3館で構成されており、宮崎市生目の杜遊古館は、出土品の整理、保管、展示のほか、市民に生目古墳群や埋蔵文化財・史跡公園等を活かした体験機会を提供するため、平成21年に史跡生目古墳群に隣接して建設された。宮崎市佐土原歴史資料館は、史跡佐土原城にある鶴松館（H5年開館）と商家資料館「旧阪本家」（H13年開館）から成り、佐土原地域の歴史や文化財等の資料の収蔵・展示を行っている。また、宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館は、高岡地区の桜の名所、天ヶ城公園内に平成5年に建設され、高岡地域の歴史・民俗に関する資料の収蔵・展示を行っている。

宮崎市佐土原歴史資料館と宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館の開館日は限定されており、地域との連携や要望に対応するため、宮崎市生目の杜遊古館への事務管理の集約と職員相互の連携を円滑に行い、3館ともに充実した資料館の運営を目指している。

また、新たに指定管理に加わった旧みやざき歴史文化館の収蔵資料の活用を図りながら、企画展を充実させる。

特に今年度は、宮崎市佐土原歴史資料館と宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館が共に開館30周年を迎えるにあたり、それを記念して2館合同の企画展の開催や史跡や社寺等のパンフレットの作成、配布を行うことにしている。

今後とも施設内容の充実とともに、これまで培った経験を十分に活かしながら、来館者の方々が学び、心から喜んでいただける施設運営を行っていく。

そこで、「宮崎市歴史資料館3館」は、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するために、以下の3つの基本方針のもと、継続的・発展的な管理運営を行っていく。

〈基本方針1〉宮崎の考古、歴史、民俗等に関する調査及び研究、展示、講座などをおして、ふるさとのあゆみについての興味・関心を高め、郷土愛を育む。

〈基本方針2〉地域の関係機関・団体と連携し、歴史文化の拠点施設として、地域資源の調査・研究並びに活用・発信をおして地域づくりに寄与する。

〈基本方針3〉コスト管理に基づいた効率的な施設運営をより一層推進する。

事業概要

1 展示事業

常設展示では、旧みやざき歴史文化館の管理も含め収蔵資料を活用し、各館の歴史的背景、地域の特色等を踏まえながら展示物の入れ替えや、解説方法を工夫し、利用者が宮崎の考古・歴史、民俗・民俗芸能等を楽しく学習する場を提供する。地域特性も考慮しながら、様々な年齢層に興味を持っていただけるようにする。

2 講座・体験学習事業

専門家による古文書や埋蔵文化財・歴史文化講座、学芸員による歴史体験講座及び学習指導員等によるモノづくりやSDGsの趣旨を踏まえた体験学習など幅広く学べる内容とする。

3 イベント事業

遊古館デイキャンプなど、季節や地域の伝統を取り入れ利用者ニーズを踏まえたイベントを実施する。

4 授業支援・出前講座事業

各学校に出向き、収蔵する昔の道具を活用した小学校社会科の授業の支援、勾玉づくり体験などの出前講座及び回想法の趣旨を踏まえた資料の貸し出しなど年間を通じて実施する。

5 その他

新しい生活様式を踏まえた感染症拡大防止の対策を行う。ホームページやSNS等を活用した情報発信、年報・研究紀要による各種事業の普及広報活動の充実を図る。

【宮崎市生目の杜遊古館】

1 展示事業

(1) 常設展示

宮崎の考古・歴史、民俗に関する資料を展示し、見て、触れて、楽しく学びながら歴史や文化に対する関心と理解を深める。

(2) 企画展示

宮崎の歴史・文化に関連する資料を収集、調査研究し、企画展示室を利用して展示する。

No.	企画展示名	内 容	実施時期
1	【新規】 企画展① 「いろんなカタチ！」(仮)	宮崎市域の歴史・民俗にまつわる資料や事象について、「形」の付く用語(形状・形式・形相・人形など)にまつわる展示・紹介を行う。	10月～12月
2	【新規】 企画展② 「嗜好品の世界」(仮)	嗜好品は個人の好みによって嗜まれるものであり、その種類は多く、人々に長年愛されている。今回は実物資料や写真パネルなどの展示を通して、その歴史などを紹介する。	1月～3月

2 講座事業

No.	講 座 名	内 容	回数	定 員
1	古文書講座 (初級、中級)	古文書解読の講座を、初心者向けとさらに勉強したい方のための中級者向けを開催し、受講者の探究心を高める。	初級3回 中級5回 計 8回	各 30人
2	歴史文化講座	色々な分野で専門的な知見を持つ講師を毎回招いて、宮崎の歴史事象や文化財、並びに日本文化等に関する講座を開催する。	10回	各 50人
3	みんなの考古学 講座	埋蔵文化財に興味関心を持っていただくため、専門家による考古学・最新の発掘調査の成果に関する講座を開催する。	5回	各 50人
4	わくわく学芸員 講座	伝統的なモノ作りを通して、一般向けに気軽に参加できる講座を開催する。	4回	各 15人

3 体験学習事業

昔の人々の暮らしと関連した体験学習の実施を通じて、その意義をひとつの文化の伝承であると捉え行う。

また、団体利用や個人・家族など少人数利用についても、創作活動等の体験学習を通じて青少年の心身の健全な育成を図れるよう、利用する方々の目的を達成できるような体験活動プログラムを企画して利用者へ提供する。

No.	体験学習名	内 容	回数	対象・定員	実施時期
	「レッツ！タイム ワープ in 遊古館」 ～発見!!昔の人は こんなにすごかった!～	農耕等の生産活動や歴史・民俗など、昔の人々が辿った生き方をSDGsの理念に沿って体験しながら学ぶ。	全 5回	宮崎市、国富町、綾町の小学校4年生～6年生 30人	5月～1月
1	石臼で粉をひこう	石臼を使って、きな粉を作る。	1回	子ども（5歳以上）と保護者 20人	6月
2	革細工のコースターづくり	革に模様などを刻印・着色し、オリジナルコースターを作る。	1回	子ども（小学校3年生以上）と保護者・一般 30人	6月
3	土器づくり	テラコッタ粘土を使って土器の製作を行う。	1回	子ども（5歳以上）と保護者 30人	7月
4	【新規】 昔の生活から学ぶ アウトドア活動	火おこしや炊飯体験を通して災害時に対応できる能力を培うとともに、非常食の活用方法を学ぶ。	1回	子ども（小学生以上）と保護者 30人	8月
5	古代織りでコースターを作ろう	古代の織り方でコースターを作る。	1回	子ども（小学3年生以上）と保護者・一般 20人	9月
6	いにしえの鏡づくり	合金を使って、古代の鏡を作る。	1回	子ども（小学生以上）と保護者・一般 30人	9月
7	藍染に挑戦	藍染液を使ってハンカチを染める。	1回	子ども（小学3年生以上）と保護者・一般 30人	9月
8	古墳ウォークラリーとカレー炊飯	古墳ウォークラリーとカレー炊飯を行う。	1回	子ども（小学生以上）と保護者 10組	10月
9	けん玉を作って遊ぼう	昔ながらの遊び道具、けん玉を竹で作って遊ぶ。	1回	子ども（小学生以上）と保護者 30人	11月
10	リースを作ろう	自然の素材（蔦・まつぼっくり等）を使って、リースを作る。	2回	子ども（5歳以上）と保護者・一般 30人	①11月 ②12月
11	古代米で餅つきをしよう	古代米をついて、餅を作る。	1回	子ども（5歳以上）と保護者 30人	12月
12	ミニ門松でお正月	正月に飾られる門松を作る。	1回	子ども（5歳以上）と保護者・一般 40人	12月
13	竹馬を作って遊ぼう	昔ながらの遊び道具、竹馬を作って遊ぶ。	1回	子ども（小学3年生以上）と保護者 30人	1月

14	カラー勾玉を作ろう	通常の勾玉づくりに加え、染色をする。	1 回	子ども（5 歳以上）と保護者・40 人	1 月
15	ダッチオーブンで古代パン	ダッチオーブンを使って、古代米を使ったパンを作る。	1 回	子ども（小学 3 年生以上）と保護者 30 人	2 月
16	古代米でぜんざいを作ろう	古代米を使って、ぜんざいを作る。	1 回	子ども（5 歳以上）と保護者 30 人	3 月
17	ハンカチの草木染め	草木染めでハンカチを染める。	1 回	子ども（5 歳以上）と保護者・一般 40 人	3 月

* 土日祝日や夏休みは、草木染め・勾玉・はにわ・土笛がつくれる個人体験も実施（当日参加可能）

4 イベント事業

イベント名	内 容	実施時期
こどもの日特別企画	館内紹介を兼ねた館内クイズラリー、及びカラー勾玉づくり等を行い、館の魅力を P R する。	5 月 5 日（金・祝）
遊古館デイキャンプ	自然環境豊かな遊古館で、火おこしなどの古代体験や炊飯体験を行い、日没後は協会内 2 施設（科学館・学習館）の協力のもと、生き物採集や星空観望会を行う。	①7 月頃 ②1 月頃
宮崎市歴史資料館 3 館スタンプラリー	歴史 3 館を巡り、周辺の歴史・民俗・名産品等について紹介するスタンプラリーを実施する。	10 月頃
生目古墳群活用応援事業	史跡公園で実施される文化財課主催のイベントと連携し、館の事業紹介を兼ねた館内クイズラリー、勾玉づくり等を行い館の魅力を P R する。	生目古墳群 de ピクニック実施日 （11 月 18 日予定）

5 授業支援・出前講座事業

総合的な学習の時間及び遠足等を活用した施設利用により来館した小学校に対し、授業の支援を行う。また、地域での歴史講座や竹細工作りなどの出前講座を年間通じて実施

6 資料活用による回想法連携推進事業

地域の方々から寄贈された昔の生活用品等を揃えた「回想法貸し出しセット」を用意し、福祉施設等に貸し出しを行い、関係団体との連携を図る。

7 その他

（1）資料収集・調査研究

歴史資料や文化財の写真収集・調査研究を行い、資料の充実を図る。

（2）資料の保存・保管

日常的に虫菌害対策を行うほか、展示室の 24 時間の温湿度管理を行い、記録データを常に監視しながら歴史資料の展示、保存に適した環境作りに努める。

(3) 他館との連携

協会の各館事業と積極的な連携・協力を図るとともに、歴史3館での横断的かつ効果的な業務の推進を図る。

(4) 年報・研究紀要の発行

宮崎市生目の杜遊古館・宮崎市佐土原歴史資料館・宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館の令和4年度事業概要及び、調査研究成果をまとめた「宮崎市歴史資料館年報及び研究紀要」を発行する。

(5) 広報の充実

館の行事案内やホームページやSNS、市広報などを有効活用し、来館者増に努める。

また、各展示資料等の解説シートの充実を図り、それに関連したグッズの製作及び販売、並びに日向神話かるたの販売促進を継続しながら館の魅力を発信する。

【宮崎市佐土原歴史資料館】

佐土原歴史資料館「鶴松館」は、今年度、開館（平成5年）から30周年を迎えるにあたり、写真パネル展を特別開館期間中（令和5年5月15日～6月14日）に、また、同じく開館30周年を迎える天ヶ城歴史民俗資料館と2館が収蔵する佐土原と高岡が関係する歴史資料を展示する合同企画展を開催する。（令和5年12月2日～令和6年2月25日）

新たに、史跡や社寺等のパンフレットを作成・配布し、佐土原の歴史文化を紹介する。

1 展示事業

（1）常設展示

佐土原地域の考古・歴史（特に佐土原藩の歴史）、民俗・民俗芸能に関する資料を展示し、楽しく学びながら歴史や文化に対する関心と理解を深める。

（2）企画展示

佐土原地域の歴史・文化・民俗に関連する資料を収集・借用し、鶴松館や商家資料館等を利用して展示する。

No.	企画展示名	内 容	実施時期
1	【新規】 企画展 「鶴松館30年のあゆみ」（仮）	開館からこれまで鶴松館で行ったイベントや企画展、景観の変化などを写真で振り返る展示を行う。	5月15日～6月14日
2	【新規】 企画展 「開館30周年記念 出張！2館合同収蔵品展」（仮）	同じく開館30周年となる天ヶ城歴史民俗資料館と合わせ、2館が収蔵する貴重な資料や、高岡と佐土原が関係する歴史資料を展示する。	12月2日～2月25日

2 体験学習事業

昔の人々の暮らしと関連した製作体験学習等を親子や一般参加者を対象に実施する。

No.	体験学習名	内 容	回数	対象・定員	実施時期
1	お城で茶道体験	鶴松館で茶道指導者のもと、伝統的な茶道を体験する。	1回	子ども（小学生以上）と保護者・一般 20人	5月
2	お城で生け花体験	鶴松館で生け花の指導者のもと、伝統的な生け花を体験する。	1回	子ども（小学生以上）と保護者・一般 20人	6月
3	うずら車の絵付け体験	佐土原の郷土玩具であるうずら車の絵付け体験をする。	1回	子ども（小学生以上）と保護者・一般 20人	8月
4	【新規】 チャレンジ77 佐土原旧跡めぐり①	史跡や社寺等のパンフレットを使い、ゲーム性を持たせながら歩いて散策する。	1回	子ども（小学5年生以上）と保護者・一般 30人	11月
5	佐土原人形の絵付け体験	佐土原人形製作者の指導で、絵付けを体験する。	1回	子ども（小学生以上）と保護者・一般 20人	11月

6	【新規】 チャレンジ77 佐土原旧跡めぐり②	史跡や社寺等のパンフレットを使い、ゲーム性を持たせながらバスを使い散策する。	1回	子ども（小学5年生以上）と保護者 ・一般 25人	1月
7	【新規】 チャレンジ77 佐土原旧跡めぐり③	史跡や社寺等のパンフレットを使い、ゲーム性を持たせながらバスを使い散策する。	1回	子ども（小学5年生以上）と保護者 ・一般 25人	2月

3 イベント事業

イベント名	内 容	実施時期
佐土原花しょうぶ祭り (共催事業)	鶴松館に隣接する花しょうぶ園の開花時期の祭りに合わせ、花しょうぶ観賞のためのイベントを実施する。	6月
神代独楽回し大会	佐土原の伝統的工芸品の神代独楽を使い、大人と子どもの部門別に独楽の回っている時間を競う。	7月
【新規】 お城でコンサート	夜の鶴松館で、古の雰囲気を感じながら演奏を聴くことのできるコンサートを開催する。	10月

4 学習支援（施設見学・出前講座）

展示物や資料を活用した授業支援として、総合的な学習の時間及び社会科等、各学校の要望に沿いながら、展示案内や出前講座を実施する。

また、要望に応じ小学校教師向けに佐土原の歴史講座を開催する。

5 その他

（1）資料収集・調査研究

古文書史料や文化財等の収集・調査研究を行い資料の充実を図る。

（2）資料の保存・保管

日常的に虫菌害対策を行うとともに、必要に応じた薬剤燻蒸を実施し、歴史資料に適した環境作りに努める。

（3）広報の充実

ホームページやSNSを有効活用し、来館者増に努める。また、地域づくり協議会等とも連携を取り広報等に努めていく。

（4）他館との連携

協会の各館事業と積極的な連携・協力を図るとともに、歴史3館での横断的かつ効果的な業務の推進を図る。

【宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館】

天ヶ城歴史民俗資料館は、今年度、開館（平成 5 年）から 30 周年を迎えるにあたり、特別開館中（令和 6 年 3 月 15 日～4 月 14 日）に、同じく開館 30 周年を迎える佐土原歴史資料館と 2 館が収蔵する高岡と佐土原が関係する歴史資料を展示する合同企画展を開催する。

新たに、開館記念展示解説パンフレットを作成・配布し、高岡の歴史文化を紹介する。

1 展示事業

（1）常設展示

高岡地区の考古・歴史、民俗・民俗芸能に関する資料を展示し、楽しく学びながら歴史や文化に対する関心と理解を深める。

（2）企画展示

高岡地区の歴史・文化に関連する資料を収集、展示する。

No.	企画展示名	内 容	実施時期
1	【新規】 企画展 「開館 30 周年記念 出張！ 2 館合同収蔵品 展」（仮）	同じく開館 30 周年となる佐土原歴史資料館 と合わせ、2 館が収蔵する貴重な資料や、高 岡と佐土原が関係する歴史資料を展示する。	3 月 15 日 ～4 月 14 日

2 体験学習事業

昔から行われてきた人々の暮らしと関連した製作体験や歴史・美術等の体験学習を親子対象に実施する。（一部一般も対象）

No.	体験学習名	内 容	回数	対象・定員	実施時期
1	昔懐かしいお菓子 づくり	昔から家庭で作られてい たお菓子を作る。	1 回	子ども（5 歳 以上）と保護 者・一般 15 人	5 月
2	弓矢づくり	竹を利用して弓矢を作 り、的当て遊びをする。	2 回	子ども（小学 生以上）と保 護者 15 人	①6 月 ②9 月
3	水鉄砲づくり	竹で水鉄砲を作って遊 ぶ。	1 回	子ども（小学 生以上）と保 護者 15 人	7 月
4	夏休み図画工作作 品を作ろう	図画工作の様々な表現方 法を体験し、工作作品を 作る。	1 回	子ども（小学 1 年生～小学 4 年生）と保 護者 15 人	8 月
5	凧づくり	和凧を製作し、大手門前 広場で実際に揚げてみ る。	1 回	子ども（小学 生以上）と保 護者 15 人	11 月
6	天ヶ城でミニ門松 づくり	正月にあわせて玄関を飾 るミニ門松を作る。	1 回	子ども（5 歳 以上）と保護 者・一般 20 人	12 月

7	二見家住宅でかまど炊飯体験	「二見家住宅」を利用して、昔ながらのかまど炊飯を体験する。	1回	子ども（小学生以上）と保護者 20人	2月
---	---------------	-------------------------------	----	--------------------	----

3 イベント事業

イベント名	内 容	期 日
高岡歴史かるたで遊ぶ	かるた遊びを通して、「高岡歴史かるた」を広く知っていただくとともに、地元高岡の歴史を学び、郷土愛につなげる。	①7月 ②9月 ③10月 ④11月 (大会)
高岡麓のまちなみを歩こう	歴史的な建造物や文化財がある高岡町内の麓地区のまちなみを散策する。	10月

4 授業支援事業

施設に収蔵している昔の道具を活用し、小学校の社会科における「市のようにとくらしのうつりかわり」の授業の支援として各学校に出向き、学習の充実に資する。また、総合的な学習の時間及び遠足等を活用した施設利用により来館した小学校に対し、授業の支援を行う。

5 その他

(1) 資料収集・調査研究

古文書史料や文化財の写真収集・調査研究を行い、資料の充実を図る。

(2) 資料の保存・保管

日常的に虫菌害対策を行うとともに、必要に応じた薬剤燻蒸を実施し、歴史資料に適した環境作りに努める。

(3) 広報の充実

ホームページやSNSを有効活用し、来館者増に努める。

(4) 他館との連携

協会の各館事業と積極的な連携・協力を図るとともに、歴史3館での横断的かつ効果的な業務の推進を図る。

令和5年度 大淀川学習館 事業計画書

基本方針

大淀川学習館は、宮崎市制 70 周年記念事業として、次世代を担う子どもたちに、「自然を大切にする心」と「郷土愛」を育むために開設された施設であり、平成 7 年 3 月の開館以来、施設・設備の特性を最大限に活かす管理運営に努めてきた。

特に近年は、乳幼児や小学校低学年による低年齢層の利用が最も多い一方で、障がいのある方や高齢の方による利用も増えていることから、利用者の多様なニーズを踏まえた、満足度の高い管理運営が一層求められている。

今後も、より多くの方々に愛され、活用される施設となるよう、以下の 3 つの基本方針のもと、継続的・発展的な管理運営を行う。

- 〈基本方針 1〉 身近な素材を見て・触れて・体験しながら、次世代を担う子どもたちを中心に、全ての世代が「自然を大切にする心」と「郷土愛」を育むため、楽しく学ぶ機会を提供する。
- 〈基本方針 2〉 関係する機関や団体と連携・協働し、広く市民に開かれた施設として、生涯学習、郷土学習、環境学習の場として、地域づくりに寄与する。
- 〈基本方針 3〉 主に自然を扱った地域密着型の魅力ある事業を展開するため、職員が創意工夫を凝らし、教育的効果と費用対効果のバランスがとれた施設運営を行う。

事業概要

1 常設展示事業

「大淀川観察ステーション」では、企画展や季節に合わせた生体や標本等を展示し、「自然楽習園(チョウのへや)」等を活用して、飼育・採捕生体の展示を行う。また、「里山の楽校」等では、自然環境を再現した展示スペースと学習フィールドとしての二面性をもたせる維持管理を行う。さらに、月間スケジュールにより、「川のシアター」等の展示解説を実施する。

2 企画展・作品展示事業

自然環境及び生物に関することを中心に、当館の設立趣旨を具現化する 7 つの企画展を行う。また、「大淀川流域の動植物画コンクール」を開催し、応募作品の展示を行うとともに、「愛鳥週間」等の外部コンクールの作品展示も行う。

3 学校教育・生涯学習支援事業

小・中学校や学童保育施設、自治会等の要請に応じて、出前講座や見学プログラム等による支援を行う。また、就学前教育を支援する一環として計 20 回の園児教室を実施する。さらに、学校教育に対しては、授業力向上講座の開催や資料の貸出等による指導者支援も行う。

4 教室・イベント事業

「水辺の教室」「里山の教室」の 2 分野に分けて講座を開設する。また、工作を中心とした定期イベント「わくわく工作」と、講演会を含む 6 つの「季節のイベント」を開催する。

5 広報事業

ポスターやチラシ、ホームページ、Facebook や Instagram 等の SNS を活用して、生体情報の発信や各種事業の宣伝等を行う。また、広報誌やマスメディア等への情報提供も行う。

6 自主事業

飲食等に対する来館者のニーズに応えるため、3 つの自主事業を行う。

7 その他

SDGs の普及、啓発のため、SDGs（環境）教育を積極的に行う。

1 常設展示事業

（１）生体等の展示

大淀川流域の多様で豊かな自然環境についての理解を促すため、大淀川流域に生息する昆虫や水生生物等の生体展示を行う。加えて、職員の専門性向上に努め、展示生体の多様性を維持する。

No.	展示スペース	内 容
1	大淀川 観察ステーション	観察ステーションを中心に、来館者が常に新鮮な気持ちで館内見学を行うため、企画展や季節に応じて定期的な展示の入れ替えや装飾を行う。また、来館者が気持ちよく見学をすることができるよう、機器のメンテナンスや施設内の壁面等を活用した解説の充実に努める。さらに、学校教育への支援の一環として、学習指導要領との関連を踏まえた展示の工夫を行う。
2	自然楽習園 (チョウのへや)	チョウの生態や特徴について、来館者が興味をもったり、知識を深めたりするため、主として学習館周辺を生息域とするチョウを、外気温に合わせた自然に近い状態で放蝶している。四季に応じたチョウの生態を観察することができる国内でも稀有な施設として、維持管理に努める。また、学校教育支援の一環として行う「チョウの見学プログラム」のフィールドとしても活用する。
3	生体展示ホール (サカナのへや)	大淀川流域の水生生物に対して、来館者が興味をもったり、知識を深めたりするために、大型水槽では、大淀川水系に生息する淡水魚を上流域、中流域、河口域ごとに展示し、円型水槽では、大淀川が流れ込む日向灘に生息している水生生物を展示している。小型水槽では、小型の淡水魚やカメなどを、個別に観察しやすいように展示している。また、絶滅危惧種アカメの飼育技術確立を進めている。
4	ホタル展示室 (ホタルのへや)	来館者が、環境保全のシンボリック存在であるゲンジボタルの生態に興味をもち、環境保全に対する意識を啓発するために、ビオトープ水槽等を活用して、季節に応じたホタルの幼虫や蛹、成虫の展示を行っている。市環境政策課等と連携して、飼育技術について研究・改善を進めている。

（２）自然環境を再現した展示（学習フィールド）

生き物が生息する環境への理解促進と興味喚起のため、本館周辺の施設を維持管理し、活用を図る。

No.	学習フィールド名	内 容
1	里山の楽校 (杉の家)	大淀川流域の自然や文化を育んできた里山を再現した学習フィールド「里山の楽校」の維持管理に努め、体験学習のフィールドや展示生体のための昆虫・植物採集の場として活用する。また、付設の「杉の家」では、固定望遠鏡や地形を観察できる模型の設置、里山の動植物に関する展示等を行う。

2	大淀川 水辺の楽校	親水公園としての機能ももつ「大淀川水辺の楽校」については、所管の市公園緑地課や国土交通省宮崎河川国道事務所と連携・情報交換を行いながら、活用、維持管理に努め、利用者が水辺の環境に親しむ場を提供する。また、体験学習のフィールドや展示する昆虫、植物採集の場としても活用する。
---	--------------	---

(3) 展示解説

見て・触れて・体験しながら、自然環境に対する興味・関心を高めたり、知的好奇心を満たしたりすることができるように、大淀川流域の自然や文化、歴史等についての展示を解説する。加えて、既設の設備や職員の専門性をいかした効果的な展示解説を工夫する。

No.	展示名	内 容		実施時期
1	川のシアター	一般上映	平日・土日祝日共通して1日3回、定時に大淀川流域の自然に関するオリジナルの3Dハイビジョン番組の上映を行う。 ※新型コロナウイルスの影響が無くなった場合は別途協議を行い、上映方法を決定する。	通年
		団体上映	利用団体の学習ニーズに応じて、団体代表者と相談して番組を選択し、特別に上映する。(前日までに要予約)	随時
		臨時上映	増加する来館者の要望に応え、当館の利用促進を図るために、毎日4回上映する。 ※感染症の影響が無い場合に限る。	小・中学校の長期休業期間 (冬季を除く)
2	ミニ講座 (ミニミニ講座)	来館者が知的好奇心を満たすことができるように、企画展の内容や季節に応じた動植物について、職員の専門性をいかした解説を行う。		通年
3	さかなたちの 食事タイム	来館者が河川の特徴や魚の生態に関する興味や関心を高めるために、大型水槽の魚が餌を食べる様子を紹介する。命のある生き物を観察していることを実感できるように季節や魚の体調に応じた解説に努める。		通年 【週2回】
4	いきものとのふれ あい&よみきかせ (絵本の読み聞かせ 音楽会)	幼い子どもが生き物と出会い、自然環境に興味・関心を抱くきっかけをつくるため、図書室にある絵本を読み聞かせし、絵本と関連した生き物を見たり、触れたりする体験活動を取り入れた解説を行う。 (また、音楽を取り入れた読み聞かせを不定期で開催する。)		通年 【月1回】

2 企画展・作品展示事業

(1) 企画展

大淀川流域の自然環境や歴史、文化について、興味・関心を高めるため、当館の基本方針に沿った企画展を開催する。

No.	企画展示名	内 容	実施時期
1	【新規】 「つかまえて、育て てみよう！身近な生 き物展」	来館者が身近な生き物と触れ合うよさを感じたり、生き物の採集や飼育方法について学んだりする。自然や環境保全活動についても考えるきっかけにするため、生体展示とあわせて解説パネルの展示を行う。	4月25日(火) ～ 6月4日(日)
2	「カラー魚拓への 誘い」	サカナの特徴について関心をもち、自然がもたらす造形美を実感するために、館内各所へカラー魚拓の展示を行う。	6月13日(火) ～ 7月9日(日)
3	「森の生き物と仲良 くなろう！カブトム シ・クワガタムシ展」	子どもたちが昆虫に興味を抱き、自然科学を学ぶきっかけをつくる。教育的要素を盛り込み、大淀川流域に生息する国内種と外国種を比べることができるように、生体や標本の展示を行う。	7月15日(土) ～ 8月27日(日)
4	「よく見てみよう！ ちょっぴりこわい生 き物&うんち展」	生命の存在価値や命の尊さについて考えるきっかけとするため、一般的に嫌悪されたり、怖がられたりする生物や排泄物の展示や解説パネル展示を行う。	9月16日(土) ～ 10月29日(日)
5	「身近な生き物と 環境展」	飼育できる身近な生き物（金魚・メダカ・カメ）を紹介することで生態系への理解を促進する。また、昆虫食や廃材水槽を展示、解説することでSDGsや自然環境保護への啓発を行う。	11月3日(金・祝) ～ 12月10日(日)
6	「変身しよう！みん なの生き物アート展」	乳幼児期から親子で自然に親しむきっかけをつくることや、SNSの普及によるフォトスポットの需要が高まっていることを受け、自然を感じつつ、写真撮影を通して文化活動にも触れることができる機会を提供する。	1月4日(木) ～ 1月28日(日)
7	【新規】 「春を感じよう！ 彩り展」	土筆や菜の花等、春を感じることができる植物を解説掲示板とともに展示することで、生命の神秘や自然のよさに気づき、環境保護への啓発を行う。	2月10日(土) ～ 4月7日(日)

(2) 作品展示

大淀川流域の豊かな自然を再認識する中で、郷土に対する愛情を育み、市民が文化的活動に勤しむ機会を提供するために、作品展を主催する。また、県や市が主催する

コンクールの入賞作品展についての展示依頼は、館の事業を鑑み、可能な範囲で受け入れる。

No.	作品展名	内 容	実施時期
1	作品展 「第 29 回大淀川 流域の動植物画コ ンクール」	動植物を観察する視点を育み、観察フィールドで直に自然と触れ合う機会をつくるため、大淀川流域に生息する動植物の絵画を募集し、入賞作品を展示する。	10 月 1 日（日） ～ 10 月 29 日（日）

3 学校教育・生涯学習支援事業

（1）出前講座・見学プログラム

幼稚園や保育所、小・中学校や学童保育、自治会等からの要請に応じて、出前講座や見学プログラムを設定する。講座やプログラムの内容は、下記の主な見学プログラム以外に、事前打合せによって内容を設定する。

No.	主な見学プログラム名	内 容
1	チョウの見学プログラム (実験工作室・自然楽習園)	小学校 3 年生「理科」の学習内容に基づき、職員による解説と、自然楽習園における生体観察を行う。
2	地層の見学プログラム (里山の楽校)	小学校 6 年生「理科」の学習内容に基づき、職員による解説と、露頭（地層）の見学や実験装置を用いた堆積実験等を行う。

（2）園児教室

宮崎市及び国富町、綾町の幼稚園や保育所等の園児を対象に、動植物の観察やふれあい体験、工作活動を通して生き物に対する興味・関心を高める。

(11 月～2 月の期間に 20 回開催する。)

（3）指導者支援

学校におけるチョウやメダカといった生き物の具体的な指導方法や教材の準備の仕方等について、小学校の指導者へ、当館職員の経験と専門性をいかした支援を行う。また、必要に応じて生体の提供も行う。

No.	講座名	内 容	定員	実施時期
1	授業力向上 チョウ講座 (実験・工作室)	チョウの生態や育て方など、指導に使える情報や素材を提供する。	各 15 人	4 月 20 日（木） 4 月 27 日（木）
2	授業力向上 メダカ講座 (実験・工作室)	メダカの生態や育て方など、指導に使える情報や素材を提供する。	15 人	5 月 19 日（金）

（4）その他の支援

キャリア教育を支援する一環として、中等教育における職場体験学習や、高等教育におけるインターンシップ、博物館実習等も積極的に受け入れる。さらに、行政機関における環境部局等から要請があった際には、共催企画を積極的に受け入れる。

4 教室・イベント事業

(1) 水辺の教室

大淀川流域の水質や水生生物など水辺の環境について興味をもち、自然環境保護に対する理解を促すため、観察・実験や体験活動を伴う講習会を行う。

No.	教室名（開催場所）	内 容	定員	実施時期
1	水の生き物のすむ環境をつくってみよう！ （実験・工作室）	生き物のすむ環境をつくり、自然下での各生体の役割や、環境を維持するための方法について理解する。	5 組	5 月 7 日（日）
2	ホタル環境教室 （実験・工作室）	実際にゲンジボタルの成虫を観察することを通して、ホタルの生態を理解する。	10 組	5 月 13 日（土）
3	川の生き物で水質を調べよう！ 「春 2 回・夏 1 回・秋 1 回」 （水辺の楽校及び実験・工作室）	水生生物を指標とする水質調査を通して、大淀川の水質に対する理解と自然環境保護への意識を深める。	各 5 組	5 月 21 日（日） 5 月 28 日（日） 7 月 16 日（日） 10 月 8 日（日）
4	カラー魚拓を制作しよう！ （実験・工作室）	カラー魚拓を制作することを通して、魚の体のつくりなどを観察し、大淀川にすむ魚に親しむ。	7 人	7 月 2 日（日）
5	自由研究にぴったり！ 浄水場（下水処理場）見学会 （市上下水道局施設）	市上下水道局と連携し、関連施設を見学することを通して、水と水環境の大切さを理解する。	20 組	7 月 27 日（木）
6	メダカの飼育・観察教室 （実験・工作室）	メダカの飼育の仕方を学習し、生体の観察を通して、身近な魚への興味・関心を高める。	各 10 組	5 月 27 日（土） 9 月 17 日（日） 9 月 18 日（月・祝）
7	水を浄化してみよう！ （実験・工作室）	簡易ペットボトルろ過器の作成を通して、水の浄化方法や水環境の大切さについて知る。	各 5 組	8 月 11 日（金・祝） 8 月 12 日（土）

(2) 里山の教室

大淀川流域に生息する動植物や生息環境、自然の恩恵について興味をもち、理解を促すため、採集や観察、体験活動を伴う講習会を行う。

No.	教室名（開催場所）	内 容	定員	実施時期
1	目指せ！ムシはかせ （水辺・里山の楽校） （7 回の内、5 回は夜間）	水辺の楽校や里山の楽校においてライトトラップ等により採集した昆虫の同定作業を通して、昆虫採集や飼育、観察への興味・関心を高める。なお、第 1 回はミツバチに特化した教室を行う。	各 5 組	4 月 23 日（日） 5 月 27 日（土） 6 月 17 日（土） 7 月 15 日（土） 8 月 26 日（土） 9 月 16 日（土） 3 月 10 日（日）

2	チョウが集まる植物を植 えよう！ (杉の家、第1・第2食草園)	自然楽習園に植栽する食草・蜜 源植物の植え付けを体験し、昆虫 の生態について理解する。	各5組	6月4日(日) 3月17日(日)
3	カブトムシの幼虫を育て よう！ (レクチャー室)	カブトムシの幼虫の飼育方法を 学習し、その生態を観察すること を通して、昆虫飼育への興味・関 心を高める。	10組	4月15日(土)
4	初めてのカブトムシ・ク ワガタムシ飼育教室 (実験・工作室)	カブトムシやクワガタムシの飼 育の仕方を学習し、その生態を観 察することを通して、身近な昆虫 への興味・関心を高める。	各10組	6月18日(日) 7月8日(土) 9月10日(日)
5	昆虫標本を作ろう！ (実験・工作室)	身近にいる昆虫を使った標本を作 ることを通して、昆虫を記録する方 法について知る。	10組	6月25日(日)
6	植物標本を作ろう！ (実験・工作室)	標本作製の講義と演習を通して、 身近な植物を記録する方法について 知る。	10組	7月23日(日)
7	ハーブティーを 楽しもう！ (杉の家)	ハーブの育て方や楽しみ方を体験 して、植物の利用方法や効能につい て理解する。	10人	10月15日(日)
8	野鳥の巣箱を作ろう！ (実験・工作室)	野鳥の巣箱を作ることを通して、 野鳥の生態や森林保護の必要性を知 る。	10組	11月5日(日)
9	ミツロウでオリジナルキ ャンドルを作ろう！ (実験・工作室)	ミツバチの巣から採ったミツロウ を用いて、自分だけのオリジナルキ ャンドルを作ること、自然の恵み を有効に活用する方法を知る。	10組	12月10日(日)
10	シイタケの種駒打ちを しよう！ (里山の楽校)	シイタケの種駒打ちを体験して、 里山やキノコに対する理解を深める。	8組	2月11日(日)

(3) わくわく工作

大淀川流域の自然や文化を理解し、参加者の文化的活動を促進する機会を設けるために、四季の移ろいや大淀川流域の自然・文化をテーマに設定して、家族で楽しみながら創作を行うイベントを、毎月第1土曜日の午前を基本に、祝日や小・中学校の長期休業日に合わせて、年間16回開催する。

(他事業との日程調整において一部実施日が変更になるものもある。)

(4) 季節のイベント

家族で大淀川流域の自然について学んだり、環境や文化に対して関心を寄せたりする機会を増やすために、楽しみながら季節を感じるができるイベントを開催する。

	イベント名	内 容	対象・定員	実施時期
夏	カブトムシの木登り大会 (学習室及び企画展示室)	飼育しているカブトムシを持 ち寄り、木登りの速さを競う。	先着事前申込 32人	7月29日(土) 予備日8月5日(土)

夏	クワガタムシの すもう大会 (学習室及び企画展示室)	飼育しているクワガタムシを 持ち寄り、すもうで競う。	先着事前申込 32人	7月30日(日) 予備日8月6日(日)
秋	河川や動植物に関する 講演会 (レクチャー室)	河川や動植物に関する専門家、 もしくは当館職員による講演会 を行う。	先着50人	11月23日(木・祝) ※予定
冬	ふれあいもちつき大会 (本館池周辺)	古来より正月を迎える準備と して行われてきた、日本の伝統 文化であるもちつきを楽しむ。	全来館者 なくなり次第	12月16日(土)
春 ～ 秋	どきどき体験 けん玉名人になろう！ (実験・工作室 またはレクチャー室)	古くから親しまれる日本の伝 統的な遊びである「けん玉」に 親しむ。	各回40人	5月20日(土) 7月15日(土) 9月16日(土) 11月18日(土)
冬	クリスマスコンサート in大淀川学習館 (レクチャー室)	当館近隣の中学校の音楽系部 活動と連携し、生き物の話等を 交えたコンサートを行う。	先着80人	12月17日(日)

(5) 教室・イベント事業共通事項

(1)～(4)の教室やイベントを計画するに当たっては、関係行政機関や専門家、協会内の他館等との連携に努める。

5 広報事業

(1) 情報の発信及び提供

大淀川学習館の活動内容を周知し、主催事業への参加や見学に対する意欲を喚起するために、情報発信の工夫を行う。また、事業案内や調査研究の成果については、積極的な情報提供を行う。

No.	広報活動名	手 段
1	年間行事 カレンダー	小・中学校を対象に、校外学習での活用や休日の家族利用を促進するため、紙媒体による広報を行う。
2	月行事案内 企画展案内	福祉施設の利用促進や社会教育施設間の回遊性を高めるために、月行事や企画展の案内チラシとポスターを配布する。
3	ホームページ	ニーズに応じた情報提供を行うために、インフォメーションと学習機能を兼ね備えたホームページを運営する。
4	ソーシャルネットワー キングサービス	公開する情報の即時性を高めるために、blog や Facebook、Instagram の定期的な更新に努める。
5	掲示板・案内板	来館時に情報を得ることができるようにするため、掲示板や案内看板の活用を図る。
6	マスメディア	展示生体の変化や特徴などについて、広く市民への理解を促し、自然環境への興味を喚起するために、マスメディアへの情報提供に努める。

6 自主事業

(1) 自動販売機等の設置

飲食物の提供や記念品の購入など、来館者のニーズに応じるために、自主事業を行う。

No.	自主事業名	内 容
1	飲料自動販売機	夏場の熱中症対策を含めて、利用者から飲料に対する要望があることから、飲料自動販売機を設置する。
2	カプセル自動販売機	特に観光で訪れた利用者からの要望が強く、記念品として企画展や展示生体と関連のあるカプセルトイの自動販売機を設置する。
3	移動販売車	施設周辺に商店や飲食店が少ないため、利用者から昼食や間食に適した軽食提供への要望が強く、宮崎フードイベントサポート協会の協力を得て、GW 期間以降の土日祝日及び小・中学校の夏季休業期間に移動販売車を招聘する。

7 その他

(1) SDGs 達成（環境教育）のための取組

① SDGs ロゴの活用

SDGs の普及、啓発のため、利用者やイベント参加者の目にふれるよう、右の SDGs ロゴを添付活用する。添付は、街頭看板、チラシ、ホームページ等に行い、できるだけ多くの方への啓発を図る。



② SDGs と各企画展・教室等の関連推進

自然環境保護等に関連がある企画展や各種教室事業等において、SDGs に関する話題を盛り込み入館者や参加者への啓発を行う。

(令和 5 年度の主な関連事業)

No.	企画展・イベント名	実施時期・期日
1	つかまえて、育ててみよう！身近な生き物展	4月25日（火）～ 6月 4日（日）
2	身近な生き物と環境展	11月 3日（金・祝）～12月10日（日）
3	川の生き物で水質を調べよう！（春・夏・秋）	5月21日（日）、5月28日（日） 7月16日（日）、10月8日（日）
4	水を浄化してみよう！	8月11日（金・祝）、8月12日（土）
5	河川や動植物に関する講演会	11月23日（木・祝）※予定
6	大淀川や生き物に関する出前講座	依頼により通年実施

令和５年度 宮崎市民プラザ 事業計画書

1. 管理運営について

指定管理期間の最終年度となる重要な節目を迎え、指定管理者指定申請時の事業計画を着実に履行するとともに、管理運営にあたっては、地方自治法や宮崎市民プラザ条例をはじめとする関係法令、平成３０年度からスタートした第五次宮崎市総合計画や第二次宮崎市教育ビジョン、第三次宮崎市文化振興計画などとの整合を図る。また、市との密接な連携のもと、施設の設置目的に沿った管理運営と事業の充実に努め、次のとおり本施設運営のための基本方針を定める。

新型コロナウイルス感染症に関しては、先行きが不透明な状況にあるが、感染症対策と社会経済活動の両立に向けた“ウィズコロナ”を見据えた取り組みを行っていく。

基本方針１：公平・公正な管理運営

宮崎市民プラザ条例及び同条例施行規則等を遵守の上、当協会の責任と判断により、特定の個人や団体に対して有利あるいは不利になるような取り扱いをせず、偏りのない平等で適正な管理運営に努める。

基本方針２：満足度の高い管理運営

市民や施設利用者の意見・要望等を管理運営に反映させるとともに、施設利用者には利用者目線でアドバイスやサポートを行うことで、満足度の高い管理運営に努める。また、定期的な接遇研修の実施により利用者に対する接遇能力を高め、利用者の満足度向上に繋げる。

基本方針３：安心・安全で効率的な管理運営

非常時に備えた定期的な防災訓練や研修を踏まえ、施設内の巡回や設備の日常点検、利用者に注意を促す掲示等により未然防止を図る。更に、万一の災害時・緊急時には、危機管理体制に基づき、その対応に万全を期し、利用者の安全確保を図る。また、業務等の効率化を積極的に行うことで、無駄のない管理運営に努める。

2. 文化芸術企画事業について

市民プラザ条例における設置目的や文化芸術基本法、劇場法、第三次宮崎市文化振興計画、宮崎市文化芸術基本条例などの国・自治体の文化行政の理念及びその方向性、更には地域の文化芸術資源などを反映させ、独創性の高い事業を企画・実施し、市民文化活動及び文化芸術の振興に寄与する。特に、第三次宮崎市文化振興計画において、重点プロジェクトに位置付けられている「若い世代へのアプローチ」と「文化芸術活動支援環境の整備」を柱に、次のとおり取組方針を定める。

新型コロナウイルス感染症に関しては、感染状況に応じた入場収容率等を踏まえて柔軟に対応していく。

取組方針１：市民文化の振興

子どもから高齢者まで、幅広い世代にわたる市民に対して、気軽に文化芸術を鑑賞・体験できる機会を提供し、市民文化の振興を図る。

取組方針２：若い世代へのアプローチ

子どもや青少年などの若い世代に対して、インターネットやSNS等を活用して文化芸術の魅力を発信するとともに、文化芸術を鑑賞・参加・創造する機会を提供し、興味関心を高めるためのアプローチを図る。

取組方針３：文化芸術活動への支援

音楽や演劇、舞踊、伝統芸能等の市民の幅広い文化芸術活動については、一定条件のもと当協会と文化芸術団体等が共催し、施設使用料等免除のほか、ノウハウ等の提供や助言、広報及びチケット販売協力などにより支援する。

３．事業の概要及び実施時期について

No	事業名	内容	実施時期
取組方針１：市民文化の振興			
1	第１７回 市民プラザコンサート 【創造・参加型事業】	市民参画による実行委員会が企画運営し、宮崎に縁のある演奏家やアーティスト等を出演者に起用する趣向を凝らしたコンサート。	２月２５日（日）
2	市民プラザ寄席 一之輔・歌春二人会 【鑑賞型事業】	宮崎出身で落語家の桂歌春さんがプロデュースする寄席。チケットの取れない落語家の一人として有名な春風亭一之輔さんを迎え、歌春さんとの二人会として開催。	１１月５日（日）
取組方針２：若い世代へのアプローチ			
3	【新規】 声優朗読劇&ワークショップ 【創造・参加型事業】	オリジナル脚本による人気声優の朗読と、チェンバロの生演奏による音楽朗読劇。プレイベントとして、公演前日に声優体験ワークショップを開催。	１２月１６日（土） １７日（日）
4	バックステージ体験 【普及・育成型事業】	小学生親子や大人を対象とした、舞台機構や音響、照明設備等をツアー形式で見学・体験してもらうオルブライトホールの舞台裏体験。	６月２４日（土） ８月 ６日（日）

5	桂 歌春の落語教室 【普及・育成型事業】	宮崎出身で落語家の桂歌春さんと宮崎の小学生が交流する機会を創出し、古典芸能の落語を身近に感じてもらう落語アウトリーチ事業。	未定
6	子どものための文化芸術体験プログラム 【普及・育成型事業】	子どもたちの文化芸術に対する関心を高めるとともに、心豊かな感性を育むため、演奏家や文化芸術団体等を小学校等へ派遣するアウトリーチ事業。	未定
7	子どものための音楽会 【鑑賞型事業】	乳幼児とその保護者に生の音楽を身近に感じてもらうとともに、乳幼児の情操を育むための様々なジャンルの生演奏にふれることのできる音楽会。	7月20日（木）
取組方針3：文化芸術活動への支援			
8	【共催事業】 みんなでわっしょい!! 第二弾 主催：演劇企画「二人の会」	宮崎出身の俳優で「二人の会」主宰の濱崎けい子さんが、人気アニメ「ワンピース」ルフィ役の声優でお馴染みの田中真弓さんや、欽ドンで一躍有名となった俳優の山口良一さんらとともに創り上げるバラエティショー。	4月8日（土） 9日（日）
9	【共催事業】 宮崎BIG BANDフェスティバル 主催：宮崎BIG BANDフェスティバル実行委員会	宮崎県内のビッグバンドが一堂に介する演奏機会を提供し、バンド同士の交流や活動の幅を広げてもらうためのフェスティバル。	11月12日（日）
10	【共催事業】 「聴く」から「書く」まで ～おしゃべりから始める文章術 主催：宮崎県立芸術劇場	文化芸術に親しんでいただくための入口として実施しているワークショップ形式の講座。編集者・ライターとして活動している大堀久美子さんを講師に迎え、座学とワークショップを行う。	10月14日（土） 15日（日）

令和5年度公益財団法人宮崎文化振興協会事務局

事業計画書

基本方針

1 法人組織の円滑な運営

公益財団法人の円滑な運営のため、法や制度改正などを適切に処理し、評議員会・理事会などの法人組織の運営と関係機関・団体との連携及び調整に取り組む。

2 指定管理業務の円滑な推進

宮崎科学技術館、宮崎市歴史資料館（宮崎市生目の杜遊古館、宮崎市佐土原歴史資料館、宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館）、大淀川学習館、宮崎市民プラザの6施設の指定管理業務の円滑な推進のため、経営会議などを通して、市並びに各施設との密な連絡調整を図る。

3 円滑な人事管理

採用、異動、給与、福利厚生、研修など協会職員の人事管理を円滑に行う。特に職員の健康管理への対応並びに資質向上のための研修に取り組む。

4 協会の目的達成のために必要な事業の推進

協会の目的達成のため、機関誌発行、協会モニター、子どものための音楽会など協会全体として行うことが効果的な事業の推進に努める。

また、協会が管理運営する教育施設について、効果的な学習利用の推進を図る。

事業概要

1 法人の管理運営事業

協会組織の円滑な運営のため、定時評議員会（6月）、定例理事会（6・3月）のほか、必要に応じて臨時会を開催する。

指定管理業務の円滑な運営のため、市並びに各施設と密な連絡調整を行う。

法人の総務・人事・財政に係る業務を適正に行う。

2 研修事業

職員の資質向上と能力開発のため、管理職研修や係長研修、接遇研修、広報研修を実施する。

3 健康管理事業

職員の健康管理のため、産業医による健康相談、健康をテーマとした研修会などを行う。

4 その他

理科授業に関し、授業づくりの助言や実験観察法の教授など、教員向けのサポートを行う。

協会全体として行うことが効果的な事業を行う。

経営戦略課主導事業

事業名	内 容	実施時期
ぶんしんきょうチャンネル	協会内の各施設のホームページ上に作成した「ぶんしんきょうチャンネル」に、動画コンテンツを定期的に配信し、各施設への来館意欲を高める。	4月～3月
理科の授業づくりサポート事業	宮崎市、国富町、綾町の小学校教諭を対象に要請のあった学校に出向いて、授業づくりへの助言や実験観察法の教授、出前授業等、理科授業全般への個別サポートを行う。	5月～2月
博学連携推進事業 教員のための博物館の日	博学連携の充実を図るために、学校の先生方に、博物館に親しみをもってもらふこと、博物館の学習資源を知ってもらふことをねらいに、「教員のための博物館の日」を開催する。	8月
職員スキルアップ事業	職員の資質向上と能力開発のため、管理職研修や係長研修、接遇研修、広報研修に取り組む。	通 年
学術・科学技術・文化・芸術振興のための研究事業	職員が日常業務の中で課題を見つけて、研究テーマを設定し、年間を通して課題解決に向けた研究を行うことで、職員の能力開発、資質向上を図る。 研究成果については、協会内で研究発表会を実施するとともに、研究報告書としてまとめ、関係機関等に配付する。次年度以降の業務改善につなげるとともに、協会の定款に定められた学術及び科学技術、文化及び芸術の振興に寄与する。	通 年
健康管理事業	職員の健康管理のため、定期健康診断のほか、産業医による健康相談、健康をテーマとした講習会などを行う。	通 年
機関誌「まなぶんか」発行事業	科学・歴史・自然・文化・教育等の視点による、トピックスや催事内容を利用者に詳しく紹介する協会機関誌を刊行することで、施設利用者増へ繋げる。 県内小中学校や県内市町村教育委員会、公民館等に加え、1市2町の小児科医院・県内図書館・博物館・公立文化施設にも配付する。	年3回
子どものための音楽会事業	乳幼児とその保護者に生の音楽を身近に感じてもらうことを目的に、各施設において乳幼児とその保護者を対象としたコンサートを実施する。各施設年1回の実施。	5月～3月 (計4回)
協会モニター事業	施設利用者の意見を施設運営や事業に反映させることを目的に、協会モニターを公募し、各施設のモニタリングや意見交換会を実施する。	通 年
1日こども館長事業	科学・歴史・自然・文化に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行なうことを目的に、各施設において小学校4～6年生を対象とした職場体験を実施する。	8月～1月 (計4回)